

ホー・図書館

No.164

発行
青木和子
松戸市牧の原
TEL 047-311-0896

ますが、いか何かを調べようとすると、途方にくれる場合があると思います。そんな時に図書館に行つて司書に相談してみる方法があるということは、一つの発見でした。

市民講座
「図書館が日本を救う
～図書館の可能性～」

主催 松戸市立図書館
講師 常世田良氏

2014.2.26.

2013年2月の講演会が大変好評だったので、松戸市立図書館主催としては二回目の常世田良さん（立命館大学教授）の講演会が、11月2日㈯、市民会館301号室で開催されました。市内外から、また議員の方々の参加もありました。

皆様からの感想を、掲載させて頂きます。

(1)

中山 英夫
「自己判断自己責任」に、社会

が変わつてきている。その自己判断の材料として図書館を利用することができます。自分が判断した結果に責任を持つということだと思います。責任を持つための判断はに基づいて行うのか。その判断をするための情報が、図書館からも入手することができる。これは大切なことだと思いました。今は、地方分権（小さな組織）と言われていますが、そこでも情報を集めることは難しいと言わっていました。

講演の最後に、質疑応答がありました。

図書館に金種類の社会科の教科書を収蔵してほしいという、市民の方の発言がありました。松戸市の図書館には、まだ全種類を収蔵してはしないですが、今後収蔵して頂き、市民の皆が閲覧できるようにして頂きたいと思いました。

匿名希望

一番に感じたことは、講演会名

(2) 加者で私と同年代の人がないなか、たことで、大変残念に思いました。

ぱっしと参加者を見渡したところ、20代と思われるのは私一人で、大半は50~60代だったように思いました。私と同年代の若いう世代も、こういふ話題にもっと関心を持つて欲しいと思う次第です。

牛ヶ浦安市では、全国一とも言わられる先進的な図書館を創り上げることに成功したのか？松戸市では何故できないのか？両自治体の違うのは何か？（もっと広く言えば、図書館が充実している街とそうでない街の違い）等々の話についても、詳しく伺いたかったです。むしろ、現在の私の興味は、その一点に尽ります。財政的に豊かかどうか、キーパーソンと名う職員がいたかどうか等々、簡単な仮説はすぐに思い浮かびますが、要因はただけではない気がします。

私自身、以前は「図書館」と聞

いて、「本を貸出す場所」「受験勉強のための自習室」という程度の認識しかありませんでした。

しかし、本日の講演をして頂いた常世田さん、及び菅谷明子さんの著書「未来を創る図書館」に出会い、図書館というとのに対する認識・理想像について大きく転換させられた数多くの読者の一人であります。菅谷さんは「未来を創る図書館」に2013年2月9日に引き続き、11月9日に行われた常世田良氏（元浦安図書館長）の講座「図書館が図本を救う」に出席させて頂いた。

二回の講演を通して痛烈に感じたのは、図書館の活用法が、これまでの暇つぶしのための余暇の施設ではなく、ビジネス支援や日常生活の問題解決の情報収集にシフトしていることだ。いわゆる「消費」のための図書館ではなく、「生産」のための図書館である。利用者は情報を得て、そこから更なる価値を生む。この循環こそが人間と社会を育てる。更にその際、必要な時に必要な答えを提供してくれる図書館には司書によるレファレンスも欠かせないと、浦安図書館を訪れる度に痛感する。

その時代・IT化は進み、メディアに触れる機会は多くなった一方、情

市議会議員 山中啓文
2013年2月9日引続き、11月9日

「わが街の図書館も、いすゞはそんな賞賛を受けるくらい立派なものにしたいなあ！」という、わざわざながらの薄れゆく願望から、本日の講演に参加しました。常にその思いは（少なくとも、市の職員である期間は）持ち続けていきたいと思います。

報過多で、時にはシンプルな事でさえ)、むしろ本当に知りたい情報に辿り着くまでの過程が困難になつたと感じることが、しばしばある。

例えは、松戸市議会では、最も基本的かつ重要な役割である各議員の「議案への賛否の態度」すら議会報にもHPにも掲載されない。それどころか、記録すら残していないのだ。平日の昼間に行われていろ議会の傍聴に直接足を運び、更にそして44人の全議員の賛否態度を瞬時に瞭解できる人は、果たして市民に何人いるのだろうか。

情報公開の一時代に、特定秘密保護法案が成立した。市民は、情報を「アクセスの権利」を求める声を、もつと盛り上げていかなければならぬ。致命的な情報ほどには入らなくなってしまった感覚もある。知りたいもの自体も、それを調べる適切な手段も、全ての

審査は図書館に蓄積されていて、毎回、質問の度に、行政内部における図書館行政の位置付けが低いことを痛感するが、これは、施設や本などのハード面、司書やレフアレンスなどのソフト面だけの問題ではない。

浦安や我孫子、市川などの隣市に比較的使い易い図書館が建ち並び、交通アクセスの良さからそれらを利用する松戸市民も多いと聞く。

しかし、いつまでも浦安に憧れるだけでは、事態は一向に改善されない。隣の烟ではなく自分の烟を青く見えるようにするには、我々市民が先ず積極的に利用して、実態に基づいた意見や要望を出して、どんどん図書館に関わっていきましょうと、改めて意を強くした講演会だった。

延伸・雨の中にいかわらず沢山の市民が集まつた今回の講演会には、職員も少々からず参加していました。これが、一筋の希望だった。

児童文学講座

「子どものいろいろ詩の――」

報告 青木 和子

2014年1月18日(土) 松戸市劇場施行70周年記念行事として、詩人・絵本作家の工藤直子さんの講演会が

工藤さんの作品には、「てつかくのライオン」「ともだちは海において」「ともだちは緑において」「あいたくて」「のはらうた工」

「あいたくて」「のはらうた工」など多数あります。工藤さんは、詩について、朗誦

(4)

について、話されました。
朗説は「聞いている人が、自分
が詫んでいる気になれるようにな
る」とあります。

所の人にも聞こえるように」「意
味が判るように」「自分の感情を
入れない」。詩の朗説は「耳から
聞いて下詩の形が判るように」。

そして、詩を朗説しました。

おう なつ だぜ かまき イク ゆうじ
おれは げんき だぜ する もどみちお

あまう ちがよるな まどみちお

おれの こころも かまも どうとう

ひかてるせ やじるしになつて きいている

おう あついぜ うみは あちらですかと…
おれは がんばるぜ ひをあひて ひをまわす すがた
ひまを ふりまわす すがた

わくわくするほど

きまつてるぜ

カク

ねがい

たんぽぽはるか

あいたくて

あいたくて

あいたくて

あいたくて

わたげを

とばします

(以上「ひらうだ」)

薔薇二曲

薔薇ノ木ニ

薔薇ノ花サク

ナニゴトノ不思議ナリレド

幾つになつても、誰かに読んで頂くのは、なんて気持ちの良いものか、と思います。もっとも、と述べて頂きました。私は、至福のひとときでした。